

Kontyû, Tokyo, 42(2): 204-205. June 25, 1974

戸隠高原の十和田型 *Epilachna* について

安 富 和 男

国立予防衛生研究所衛生昆虫部

福 田 彰

青森県八戸市上徒士町 20

Kazuo YASUTOMI and Akira FUKUDA: Notes on Towada Form of the *Epilachna vigintioctomaculata* Complex (Coleoptera, Coccinellidae) from Togakushi, Nagano Prefecture

Synopsis On July 30, 1973, we found a particular "Towada form" of the *Epilachna vigintioctomaculata* complex at Togakushi, Nagano Prefecture, which feeds on the leaf of *Caulophyllum thalictroides robustum*. This form is very closely similar to the "Tokyo west suburbs form" known as potato-leaf pest.

福田 (1970) は、青森県十和田蔦温泉菅沼のほとりの山林中より、ルイヨウボタン *Caulophyllum thalictroides robustum* (メギ科) を生育完了植物としている オオニジュウヤホシテントウを発見し、東京西郊型にもっとも近い *Epilachna* として報告した。その後の調査でさらに、むつ小川原市柳沼付近や、七戸町天神林などの数カ所にも同じ *Epilachna* が棲息していることを確認したが、いずれも青森県内であった。

1973 年 7 月 30 日、筆者らは長野県戸隠高原にある戸隠奥社の薄暗い杉林の下草として生えているルイヨウボタンに、まったく同じ *Epilachna* が多数棲息していることを発見したので、食性など若干の観察結果を加えてここに報告する。

この場所は標高約 1,200 m、杉を主体にした林の中には、ルイヨウボタンがかなり高密度に生じており、これにおびただしい数の幼虫 (2~3 令から終令) がついて食葉中であつたし、越冬成虫 (写真) も見られた。

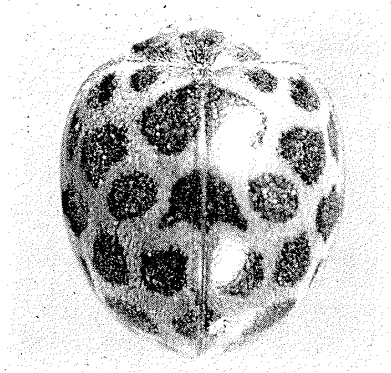


図 1 十和田・戸隠型 *Epilachna* (戸隠奥社産)。

この林中には、ルイヨウボタンに混じってウコギ科のトチバニンジン *Panax japonicus* が生えているが、これを摂食中の幼虫も発見することができた。トチバニンジンを実験的に与えた場合、正常に生育完了するのは、オオニジュウヤホシテントウ群中、十和田方面に棲息するいわゆる十和田型と、今回ここに報告する戸隠産の *Epilachna* だけであることを確かめることができたし、形態的な差異もまったく認め

られないので、これら両者は完全に同じものと思われる。

また、この十和田・戸隠型 *Epilachna* は実験的に ジャガイモの葉を与えた場合、東京西郊型 *Epilachna* と同じように正常な生育を完了することや、形態的な特徴などから推して、東京西郊型に酷似した *Epilachna* である。そして、今後、青森県と長野県戸隠の中間の各地に点在していることが発見される可能性がきわめて大きいものと思われる。

文 献

- 福田 彰, 1970. ルイヨウボタンを食草とするオオニジュウヤホシテントウ群の未記録の1型について. 昆虫, 38: 384-352.
 安富和男, 1973. オオニジュウヤホシテントウ群をめぐる最近の諸問題. 昆虫と自然, 8(6): 2-8.

新 著 紹 介

Insecta: Plecoptera; Phylogenetisches System und Katalog. Bearbeitet von Dr. Peter Zwick. *Das Tierreich*, (94): i-xxxii+1-465, 75 figs. Mai, 1973. 490.-DM.

比較解剖によって、楯翅目の筋肉系、神経系、気管系、生殖系などの諸器官系を精査し、系統学的見地から各科、種属の類縁相互関係を詳細に述べている。著者は、内部構造の詳細な研究を基として、今までとはまったく異なった楯翅目の系統樹を呈示している。この研究から、幼虫時代の鰓の配列などによって、従来のもとは異なる2新亜目を創設した。すなわち、Arctoperlaria (キタカワゲラ亜目) および Antarctoperlaria (ミナミカワゲラ亜目) である。著者は、この研究のために、地球上に現存する代表的な属の大部分を解剖している。

本書の前半(約90ページ)は解剖と系統について論じられているが、後半はILLIES (1966) の楯翅目カタログ出版以後に記載発表された種のカタログと文献目録である。本書によると、本邦産の楯翅目の若干の属に属名の変更されたものがある。

ZWICK のカタログによれば、地球上から既知の楯翅目は不確実な種を含めて239属、1,718種である。この数字はILLIES (1966) のカタログ以降約200種の増加を示している。

本書は邦価約50,000円とかなり高価であるが、楯翅目の研究者だけでなく、昆虫類の系統学や形態学に興味をもつ者にも有用な書物である。

(川合楨次)